

倶多楽火山

○ 大正地獄の熱水活動

大正地獄の熱水活動は静穏な状態で推移したが、登別温泉街で有感となった2つの地震に伴い熱水温度に一時な上昇が認められた(図1)。これは地震によって熱水が攪拌されたこと、あるいはセンサー位置の移動が原因と考えられる。

このうちの1つは2月4日に日和山の西方約2 km 付近で発生M2.5 の地震であるが、地震後の熱水温度や地動振幅に変化は認められない。

この他、12月24日から24日にかけて、水位が2 cm ほど低下し、これにやや遅れて背景的な地動振幅も小さくなった(図2)、これは流出量が減少したことを伺わせる。

(注) 前回(133回)、報告した大きな振幅での水位変化は、水位計の動作パラメータの不適切な設定に起因した見かけの変動であることが判明した。

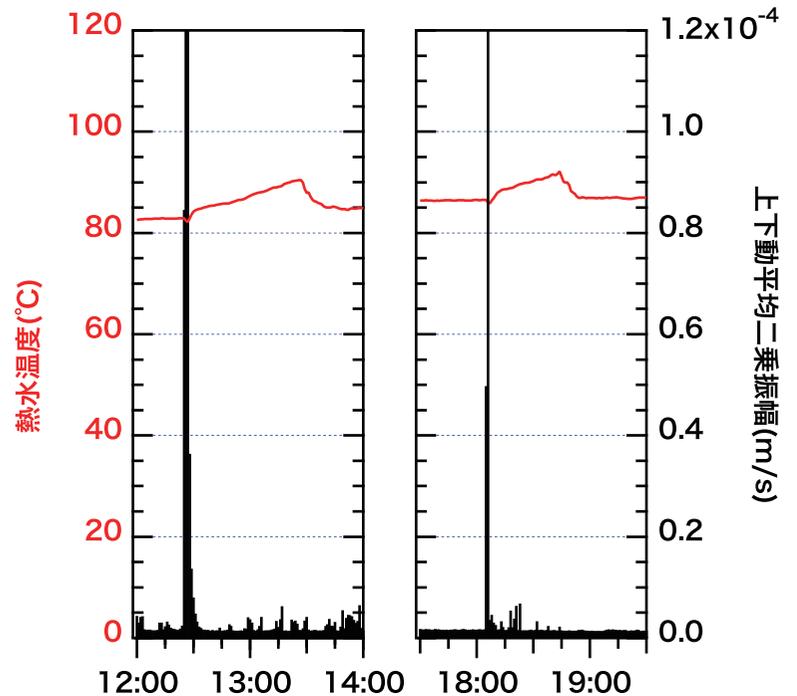


図1. 有感地震に伴う熱水温度の変化. 左:16年1月14日(震度IV)、右:16年2月4日(震度II?)

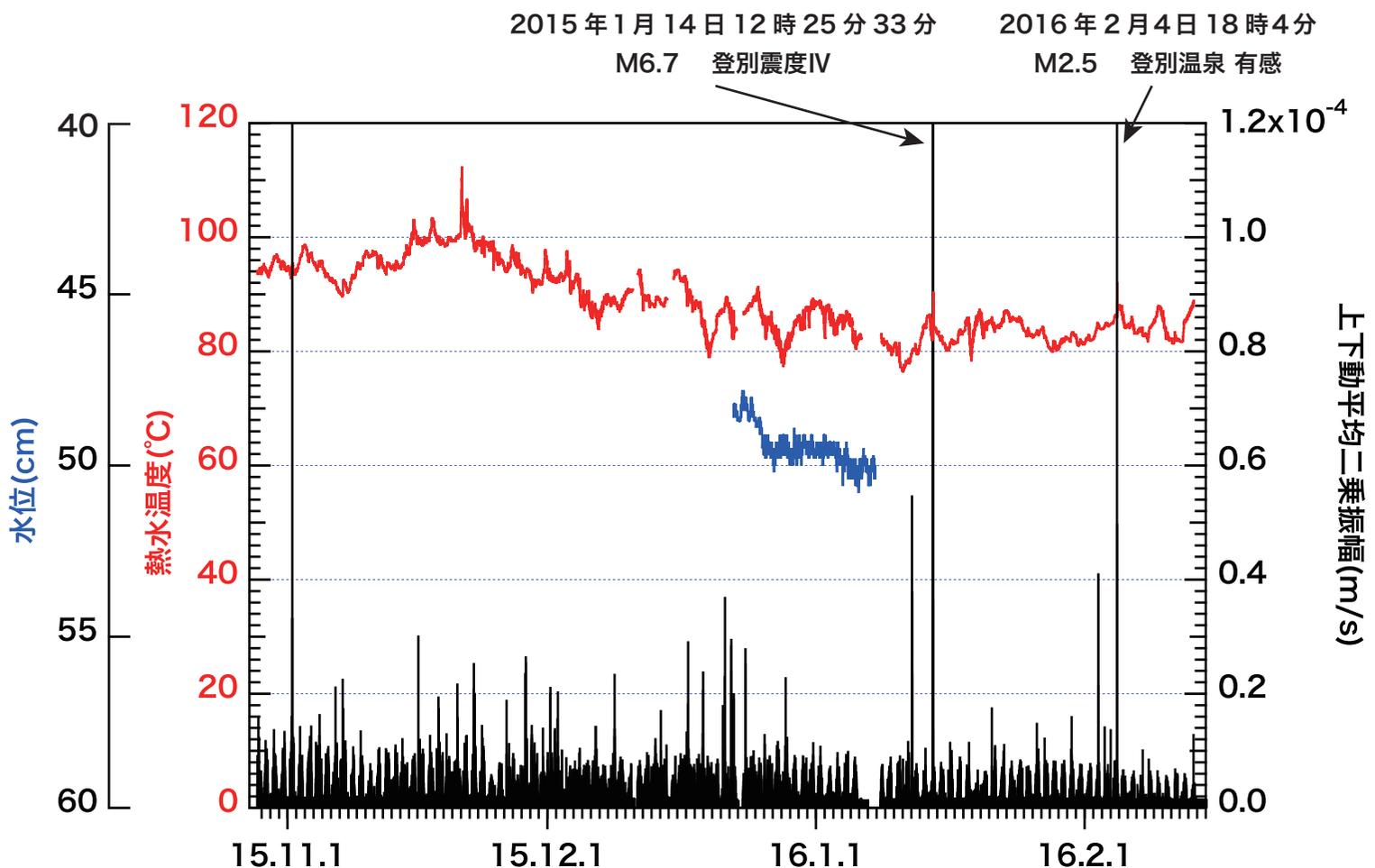


図2. 大正地獄の熱水温度(赤)、水位(青)及び上下動二乗平均振幅(黒)の時間変化。